

たのしい たのしい 船穂校 ♪

倉敷市立船穂小学校 横山文朗

お弁当

保護者の皆様にみていただくことを一番のねらいにして、ホームページのリニューアルをしました。ホームページ担当の高矢先生と前田 瞳先生はけっこう力が入っていて、わたしもがんばらないと記事を催促されそうです。中でも、5月1日の遠足のページは楽しくていいですね。保護者の皆さんが手間をかけたお弁当が次々と映し出され、心暖まる思いがしました。友だちや先生といっしょに弁当を広げる子どもたちの笑顔を見て、遠足っていいなあとも思いました。

わたしが保育園の時、一つ年上にひろ君がいました。ひろ君の家は田畑が狭く、お父さんは近所の子の農作業や山仕事の手伝いをして生計を立てていました。ひろ君のお弁当は、ご飯の真ん中に梅干しが入っているだけでおかずは何も入っていませんでした。わたしの家も裕福ではなかったけれど、それなりのおかずが入っていて、「ひろ君、食べえ。」とよくおかずをご飯の上に乗せてあげました。テレビも家にはなく、「ひょっこりひょうたん島」や「ジャングル大帝」などを、わたしの家で一緒に観ました。ひろ君は何度さそっても座敷に上がろうとはしませんでした。上がりがまちにすわってテレビを観て、わたしの父親が帰る時間になると、番組の途中でも「文ちゃん、帰らあよう。」と喋って帰って行きました。きっと家で座敷に上がるな、家の人に迷惑をかけるなときつく言われていたのでしょう。わたしが子どものころには、思い出ただけでもせつなくなるような貧困が身の回りにありました。

皆の前で、梅干し一つのお弁当を広げるひろ君は、毎日つらかったろう。我が子の弁当におかずをいれるゆとりのないひろ君のお母さんは、さらにつらかったろうと思います。時代は変わっても、子どもを思う保護者の思いに変わりはないと思います。子どもたちのお弁当から、皆さんの我が子に対する愛情の深さを感じた一日でした。



※ひろ君は仮の名前です。